



第124号  
野毛山幼稚園  
横浜市西区老松町30  
TEL045-231-0150

## 神が人となられたクリスマス

野毛山キリストの教会牧師 奈良昌人  
野毛山幼稚園園長

皆さん、子どもの頃のクリスマスマスの思い出をお持ちでしょうか。私は秋田県出身で、クリスマスは雪、ホワイトクリスマスマスの印象が鮮明に残っています。クリスマスチャン家系・家庭ではありませんでしたが、小学生の頃、クリスマス前になると雪が積もった道を親戚の山に行き、家の居間(と言っても畳部屋)に飾るのにちよいとい大きな木を切ってきて一斗缶の中に石を詰めて木を立て、クリスマスツリーにします。そして母と一緒に飾りつけをします。今のようになしやれたオーナメントはありませんでしたが、赤や緑、青や黄色の直径4cmほどの丸い電球のイルミネーションを巻き付けます。そして、綿を雪にみたてて枝に乗せ、トップスターをつけたらクリスマスツリーの完成です。クリスマス・イヴの夕方には、雪の中をサンタクロースの衣装をまとったケーキ屋さんがクリスマスケーキを配達してくれます。この時の喜びは格別のものでした。父はバスの運転士でしたので、日によって帰宅時間が変わりましたが、クリスマス・イヴには早めに帰宅していたようです。母は看護師で、夜中に呼び出されることもあったのですが、わが家のクリスマス

ス行事はとても大切にしていたようでした。夕食の時にはケーキにロウソクを立てて火を灯し、蛍光灯を消してロウソクの明かりの中で「きよしこのよる」を歌いました。中学生になってギターをつま弾き、少し照れながら歌っていたことも思い出です。周りの友人宅でも同じようにクリスマス・イヴを過ごしていたかは定かではありませんが、わが家のこのようなクリスマスマスの背景には、母が看護師で、ナイチンゲールの影響があったのではないかと思います。また、同じ住宅地の方がクリスマスチャンで、母の仕事の上でもお世話になっていました。その方の影響もあったのでしょうか。そんなことは知らずに、そもそもクリスマスが神の御子のイエス・キリストのお生まれになった日であることは、うすすらと知っているだけで、「♪シユワキマセリ」と聞いた歌ったりしても何のことなのか分かっていませんでした。イエス・キリストが救い主(メシア)であり、お生まれになったのがクリスマスであり、キリストが主であり、王であることを知ったのは教会に通うようになってからです。

クリスマスはキリスト教の行事としては日本で唯一、市民権を得ているものと言えますが、第二次世界大戦終戦後の日本の高度経済成長期に商業戦線に乗って広まったものです。近年では毎年渋谷のスクランブル交差点での仮装徘徊が話題になるハロウィン(教会行事ではありません)がやはり商業によって広まりましたが、キリスト教のものとしてはドイツ・ニールランドでイースターという言葉が使われてグッズが売られたり、最近ではアドベントという言葉が教会ではない所でも使われるようになりました。子どもたちがサンタクロースのプレゼントを一日一日楽しみに待つことや、恋人たちがクリスマスマスを心待ちにする思いを商業が的確に捉えて様々な仕掛けを提供しています。うれしいことですが、しかしそこに主役のイエスさまはおられません。まして最近の街のポスターは「メリー・クリスマス」という言葉に代わって「ハッピー・ホリデーズ(楽しい休日)」というのにも目にします。キリスト教以外の信仰の人々にも配慮してのことのようです。お互いの立場を尊重し合うことは大切なことですが、クリスマスという言葉を使わないことが他者への配慮になるという発想には少し残念な思いがします。

それは、聖書にはイエスさまの誕生が一部の人のためではなく、「民全体に与えられる大きな喜び」であると天使たちが最初に羊飼いたちに告げているからです。(ルカ2:11)当時の羊飼いは神さまの救いから遠いところにいると考えられました。しかし、羊飼いたちに告げられた天使たちのこの言葉は飼いたちの幼子イエスにおいて実現しました。神さまから愛されるために特別なことは必要ありません。クリスマスはすべての人のために「神が人となられた」日なのです。飼いたちに眠る赤ちゃんを見守るように、神さまは私たち一人ひとりを見守ってくださっています。すべてを赦し、すべてを受け入れてくださる無償の愛(アガペー)で私たちを愛しておられるのです。この喜びをたくさんの人たちと分かち合いませんか！

メリー・クリスマス！

